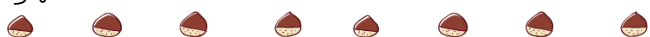


ふくしま通信－第18号－

合同キャンプその後

とくべつ暑かった今年の夏から早や3ヶ月。今はもう夏の暑さも忘れ、その賑わいもすっかり姿を消しました。秋の深まりとともに遠い日のように感じられる頃となりました。少し落ち着きを取り戻したところで、参加された福島のお母さんからのお礼状パートIIを掲載させていただきます。



今回、ふっこうのかけ橋キャンプでは親子で大変お世話になり本当にありがとうございました。母親対応をしてくださった事務局の方を始め、たくさんの方に助けていただいていた楽しい思い出ができたこと、本当に感謝します。

帰ってきた次の朝、仕事に行く準備をしながら今回いただいたたくさんの優しさとか、祈りとかいろいろな物が感じられて、涙がボロボロと止まらなくなりました。

私達家族は、仙台から福島に来て3年ですが、いたる所にあるガイガーカウンターも毎日目にするうちに当たり前の風景になっていました。が、今回神戸に行って、それが当たり前じゃなかったんだ！と。

ガイガーカウンターのある風景、天気予報で流れる放射線測定値が、無意識だったけれど私の心を少し重くさせていたんだなあという事にも気づきました。

また、主人は6月から原発の町で仕事をし、単身赴任をしています（正確には原発の町で仕事をし、帰宅困難地域のため住んでいる所はそこから1時間ほどの町）が誰かがやらなければならない仕事と分かってはいても、この先の言い知れぬ不安・・・。

会社からは安全だから大丈夫と言われているようですが、仕事をしている場所から道路一本はさんだところは放射線量の高い帰宅困難地域。通勤経路も、（放射線量が高いため）バイクは通れない道路だそうです。

仕事だからしょうがない、けどどうして・・・。

心に蓋をして、誰にも話せない思いがありましたが、今回住吉教会でお会いした方が（すみません、名前を存じ上げませんが、眼鏡を掛けてショートカットの、先生？お食事の説明をしてくださった方です）「毎日福島のために祈っているわよ」と言って下さいました。

その言葉の重みと、このキャンプの目的、神戸の皆様の想いの深さを感じ、ただただ感謝の思いで、胸がいっぱいになりました。

住吉教会で朝目覚めた時に、なにかに包まれているような安心感？を感じ、なんだろうと考えていましたが、きっとそれは皆様の想いや祈りがそこに満ちていたのかなあと、不思議な思いで味わっていました。

また、六甲学院のリーダー達が本当に優しく、細かいことにも気が効いて、なんて素敵な子達なんだろうと感動しました！

息子のりくも、お友達のゆいとくんも、皆さんのお陰で本当に楽しいとびきりの夏休みを過ごせたようで、楽しかったことの第一位はダントツで神戸キャンプ！ 暑中見舞いも日記の宿題もお土産話も、ぜんぶ神戸キャンプ！でした。

子連れでさらに一泊と無理を言ったにも関わらず、快く受け入れてくださり、たくさんの素敵な場所に連れて行っていただき本当にありがとうございました！

久しぶりにリフレッシュ！できた、本当に嬉しい楽しい、幸せな時間でした。

私も、神戸の皆様のためにお祈りしています。

福島在住 MT



こんな風に子ども達には飛び切り楽しい夏休みをそしてお母さん方には日常の忙しさや不安な気持ちからひととき解放され、ほっこり出来るプログラムを毎年提供できていることに感謝です。

それは取りも直さず神戸地区のみなさんの善意のあらわれに他なりません。支えられていると感じながら行動できることほど力強いことはありません。年末を迎えましたが、2019年度の取り組みを話し合うために実行委員会を予定しています。

もう来年のことを言っても鬼に笑われるようなことはないでしょうから。

